

魚釣りのこと

文・小西 一三
絵・小西 由紀子

旧

天王町の教育長も務めた石川次男さんは天王生まれの天王育ち。子どもの頃のフナ釣りで釣りの楽しさに目覚め、大人になってからは「天王釣友会」の初代会長を務めるなど、長年にわたって釣りを楽しんできた方です。釣りにまつわる思い出をお聞きしました。

先代のおう(和尚)さんと並んで
フナ釣りをしたのは、俺くれだべなあ(笑)

小

学生の頃は、とにかくフナ釣り。釣り竿はもちろん、自分で竹を採ってきて自分で作り、餌はミミズだった。よく行ったのは自性院の裏の方にあった堤だな。当時、お寺の裏は田んぼが広がっていて、その中に五郎兵衛堤という小さい堤があった。そこに釣りに行くのは小学生の俺とお寺の先代のおうさん(哲宗さん)くらい。俺が釣り竿を出していれば後から来たおうさんが「おう石川君、来てだが」と言っ、ちよつと離れた自分の釣り場に向かう。お互いが見える距離なので、隣の釣果が気になるもんだ(笑)。こちがさっぱり釣れなくても、おうさんの方がバンバン釣れる時があるし、その逆の時もあったな。

普通だったら誰もいなければ前回釣れた場所に竿を出したくなるもんだ。俺は「なるほど、おうさんは絶対に自分の場所を変えないで、いつも同じ場所。俺は「なるほど。なんぼ早く来ても、他人が通う釣り場には竿を出してはいけないもんだべな」ということを教わったような気がした。おうさんはいつも一人で、実に静かな釣りをする方であつたよ。

俺の親父は東北電力の会社員だったけど釣りが好きでな、小学校高

学年の頃には川ダイ(黒ダイ)釣りに3回は連れていってもらった。夕方、親父の知り合いの漁師に湯船を出してもらって、海の近く(今の江川漁港近く)まで下つて船を止める。竿なんか使わないでテグスを手で持つて当たりをとる、いわゆる手釣りだな。餌は川エビだった。これがなかなか難しく、親父でも1尺以上の川ダイを2、3匹釣れば「今日は大漁だな」と上機嫌だったなあ。

今まで海釣りもけっこうやってきたけど、やっぱり釣りは「フナに始まり、フナで終わる」ような気がする。今でも湯や水路でフナは釣れるよ。でもな、干拓前と今とではフナの味も香りもまったく違う。5月になれば湯から堰や田んぼに入ってきた、銀色の「上りフナ」の味は忘れねえなあ。



釣り人 石川 次男 全長 63.5cm
場所 天王 沖 長さ 3.0kg
釣り日 平成25年8月22日 同乗人 菅生 清